

資料2

検討項目別の論点整理

- 探究学習と中高一貫教育
- グローバルな人材育成
- AX時代の論理的思考の育成
- 部活動強化と指導者確保

探究学習と中高一貫教育（中高接続）

1 【論点整理】

（1）中高の学びの連続性とカリキュラムの円滑な接続

・高校1年時において、中入生と高入生の学びの足並みを揃えつつ、中学からの積み上げを活かした連続的・発展的な探究カリキュラムへの再編・工夫を図る。

・中入生が高入生に向けて中学での探究活動を発表・共有する機会を設けるなど、お互いに刺激を与え合いアウトプットを深める学びの場を構築する。

・総合学科としての強みを活かし、多様な選択講座や時間割編成を通じた円滑な中高接続を模索する。

（2）生徒の高度な探究心に応える外部連携・専門人材の活用

・企業、大学等の外部機関との包括的な連携協定の締結や、コーディネーター的な専門人材の配置を検討する。

（3）身近な地域課題を起点とした探究活動

・校外の多様なステークホルダーと生徒をつなぐ仕組みをつくり、地域課題や身近な問いからより深い探究へと発展させる体制を整備する。

グローバルな人材育成 2

2 【論点整理】

（1）多様性の包摂と、対話・合意形成による「社会の創り手」の育成
- 異なる背景や価値観を持つ多様な他者の主張や感情を受け止め、協働しながら持続可能な社会を築く力の重要性。単なる語学力の習得にとどまらず、利害や意見の相違を乗り越えて合意形成を図る力を育む

（2） 地球規模の課題に対する多角的な解像度の向上
- AIや科学技術の発展が世界経済や雇用、倫理に与える影響を俯瞰し、自国の文化や地域社会の文脈と引き比べながら、地球規模の課題を「自分事」として捉えて思考する力を養成する

（3） ローカルとグローバルの架橋
- 市立長野中・高が培ってきた地域探究の資産をベースに据えつつ、そこで得られた知見や課題解決のモデルを国際的な視点から検証・発信できるような、開かれた教育課程（カリキュラム・マネジメント）を構築する

AX時代の論理的思考の育成 3

3 【論点整理】

（1） 「外化（書く・話す）」を伴う表現力と批判的思考の統合
- AIが提示する情報や解答を鵜呑みにせず、その情報の真偽や偏りを多角的に吟味し、自らの論理で妥当性を検証する「批判的思考力」を各教科の探究的な学びの中で徹底する
- AIの成り立ちや使い方の講義

（2） 情報を構造化・一般化し、現実の複雑な課題に適用する力の育成
- 得られたデジタル情報やデータをただ処理するだけでなく、原理・原則を見出して一般化し、AIには代替できない「自ら問いを立て、複雑な社会課題の解決に結びつける論理的思考」を中高のカリキュラム全体で育む

（3） デジタルの賢い活用と「距離の置き方」の確立
- AIやデジタルツールを「道具」として主体的に使いこなす能力（情報活用能力）を高めると同時に、過度な依存を防ぎ、自ら思考を深めるための「学習の自己調整」や情報モラルを定着させる

４ 【論点整理】

（1） 多様性の強みと学校としての一体感の醸成

・「社会の縮図」とも言える多様な生徒が集う環境（プラットフォーム）を本校の強みと捉え、協働関係やパートナーシップ、相互理解を深める場として積極的に位置づける。

・誠実さや努力の尊重といった普遍的な価値観を根底に置きながら、すべての生徒層が目指すべき学校全体の方向性・目的に対する共通理解（一体感）を形成する。

（2）指定部活動の持続可能な推進と文武両道への支援

・スポーツ志向層に対する適切な学習サポート体制を強化するとともに、シンボリックな体育施設を用意する。

・県教委との連携や外部指導者の積極的な活用を図り、指導体制の継続的・組織的な確保に向けた検討を進める。

・学校が目指す姿や対応範囲を整理し、生徒・保護者・地域社会に対して丁寧に説明し理解を得るプロセスを大切にする。